令和４年　１０ 月　 １４日

令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和４年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

令和4年4月19日（火）

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語　４６人	算数　４６人	理科　４６人
第５学年	国語　４０人	算数　３９人	理科　４０人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

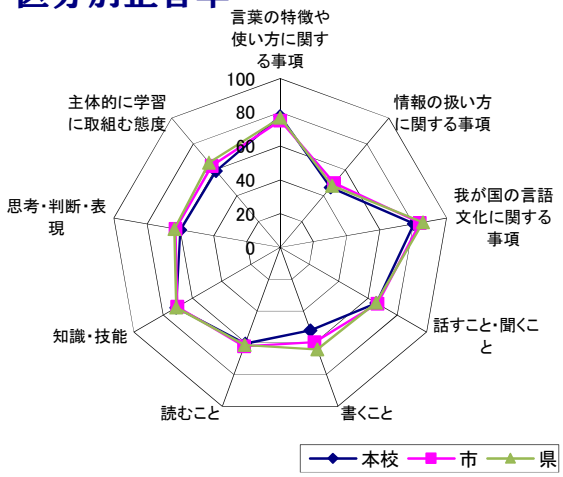
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.6	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	46.4	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	80.4	84.0	85.9
	話すこと･聞くこと	65.7	66.5	65.5
	書くこと	52.2	59.6	64.2
	読むこと	60.5	62.2	61.5
観点	知識･技能	71.1	70.2	71.1
	思考･判断･表現	60.0	62.9	63.6
	主体的に学習に取組む態度	59.1	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

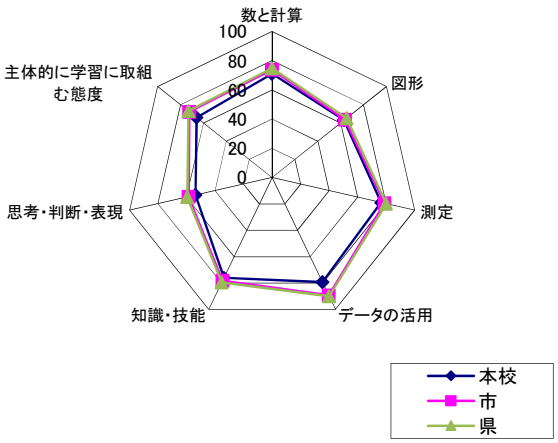
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	･領域全体の平均正答率は，市平均よりも2.5ポイント高い。 ○漢字を読んだり書いたりする問題は，熟語であったり送り仮名があったりしても正確に解答できており，第3学年に配当されている漢字がよく理解できていると思われる。	･漢字に関しては，今までの漢字の復習を行う中で，単体で練習をするのではなく，熟語として様々な読み書きに触れていく。また，文章を書く活動で，既習の漢字や熟語を使えているか丁寧に添削を行い，継続して定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	･領域全体の平均正答率は，市平均よりも3.2ポイント低い。 ●情報の一部にとらわれてしまい，情報の前後関係を正しく捉えることができていない児童が多いと思われる。	･初めて出会う言葉や分からない言葉を調べたり，短文を作る学習をしたりするときに国語辞典を積極的に活用し，使いこなせるようにしていく。
我が国の言語文化に関する事項	･領域全体の平均正答率が，市平均より3.6ポイント低い。 ●漢字を構成要素ごとに捉えておらず，へんの意味を理解していない児童が見られる。	･新しい漢字を学習する際には，身近に置いた国語辞典･漢字辞典を活用して，自分で言葉をひいたり，同じへんの漢字を既習事項から集めたりする活動を充実させ，漢字の構成等に関心を広げられるようにする。 ･既習学年前であっても，児童が関心をもった時期に，へんやつくりなどに触れられるように，ドリルや1人1台端末の使い方を工夫する。
話すこと・聞くこと	･領域全体の平均正答率は，市平均よりも0.8ポイント低い。 ○内容を聞き取って答える問題では，どの設問でも，市の平均よりも正答率が高く，よく聞き取れている。 ●話の中心は押さえているが，相手に伝わるように自分の考えとその根拠を述べることができていない児童が多い。	･教育活動全般において，友達と自分の意見を比べながら聞くとともに，相手に伝わるように自分の考えに根拠を付けて表現する機会を多く取り入れる。
書くこと	･領域全体の平均正答率は，市平均より7.4ポイント低い。 ●特に，条件の1つとなっている2段落構成で文章を書くことが守られて書かれているのは32.6%であり，市の平均正答率よりも11.9ポイント低い。伝えたい内容によって段落を分けるという役割への理解が低いことが分かる。	･内容を整理したり段落構成が決められていたりと複数の条件を意識して文章を書くことに慣れていない様子が見られるので，国語の授業等で，要約したり，条件を付けて作文を書いたりする練習をしていく。
読むこと	･領域全体の平均正答率は，市平均よりも1.7ポイント低い。 ●叙述を基に，場面の様子や内容を正確に捉えることに課題が見られる。 ○登場人物の気持ちを叙述を基に捉える問題では，正答率9割以上と高い。	･児童にはっきりとした単元全体のめあてを提示し，身に付けたい言葉の力を意識させるような授業を行うことで，全体を見通して内容を正確に捉えることができるようにする。

宇都宮市立岡本小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.1	73.8	74.8
	図形	63.0	63.7	65.3
	測定	76.5	78.9	80.1
	データの活用	79.3	89.3	90.0
観点	知識・技能	76.1	78.3	79.5
	思考・判断・表現	53.7	58.6	59.5
	主体的に学習に取組む態度	66.0	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

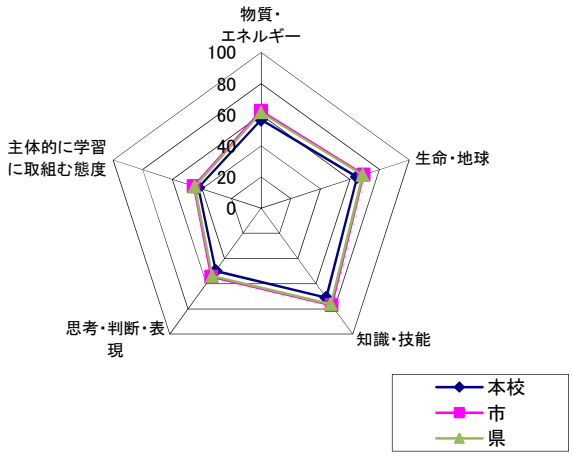
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域全体の正答率は，71.1%であり，市の平均正答率より2.7ポイント低い。 ○繰り上がりのたし算の計算問題の正答率は，93.5%であり，市の平均正答率よりも4.7ポイント高い。 ○わり算の計算問題の正答率は，100%であり，市の正答率よりも8.4ポイント高い。 ●整数－小数第一位の計算問題の正答率は，34.8%であり，市の平均正答率よりも12.8ポイント低い。 ●余りを切り上げて処理する思考問題の正答率は，52.2%であり，市の平均正答率よりも12.4ポイント低い。	・基本的な計算技能が身に付くよう，今後も繰り返し計算問題に取り組む時間を確保していきたい。 ・位の違う小数のたし算・ひき算の計算が定着していないことが課題である。位取り表を用いて数の大きさを確認しながら計算したり，ノートのマスを活用して位をそろえることを重点的に指導したりして，計算の習熟を図っていきたい。 ・問題の場面を読み取り，算数的な考え方を生かすことが身に付いていない。実生活にかかわる算数活動を多く取り入れたり，場面の理解のために，図や絵などの視覚的な教材を用いながら，問題を把握できるようにしたい。
図形	・領域全体の正答率は，63.0%であり，市の平均正答率よりもそれぞれ0.7ポイント低い。 ○箱詰めされたボールを見て，それらのボールの半径を求める問題の正答率は，73.9%であり，市の平均正答率よりもそれぞれ12.7%高い。 ●円の半径とコンパスの使い方に関する問題の正答率は，63.0%であり，市の平均正答率よりもそれぞれ，10.4ポイント低い。 ●円の半径の長さと二等辺三角形の辺の長さの関係を説明する問題の正答率は，6.5%と低い値であった。	・半径や直径がどのようなものかは分かっているが，コンパスを使って，どのような円や多角形，模様ができるかということは，理解が十分でない。コンパスの使い方を繰り返し確認し，円の中心と，円周曲線の長さの理解について習熟を図るとともに，コンパスを用いて，楽しみながらいろいろな模様や図を作成したり，作図したものを共有し合ったりする活動を通して，図形に対する関心や，作図の技能を高めていきたい。
測定	・領域全体の正答率は，76.5%であり，市の平均正答率よりもそれぞれ2.4ポイント低い。 ○地図から道のりを読み取って計算で求める問題の正答率は，84.8%であり，やや高い値であった。 ●2つの時刻の差を求める問題の正答率は，69.6%であり，市の平均正答率よりも6.7ポイント低い。 ●「□分△秒」を「○秒」で表す問題の正答率は，78.3%であり，市の平均正答率よりも4.6ポイント低い。	・アナログ時計などの視覚的教材を用いながら，時計の60進法の数量感覚を身に付けさせたい。また時間を分や秒，分数で表すなどの計算を積み，時間の計算技能が身に付くようにしていきたい。
データの活用	・領域全体の正答率は，79.3%であり，市と県の平均正答率よりもそれぞれ10.0ポイント低い。 ○棒グラフを読み取り，2番目に大きいものを選ぶ問題の正答率は，84.8%であり，やや高い値であった。 ●棒グラフで1目盛りの表す数を答える問題の正答率は，73.9%であり，市の平均正答率よりも15.8ポイント低い。	・グラフを見て，どのようなことがわかるのか（縦軸や横軸，1目盛りの数量，変化のしかた）などを読み取るポイントや手順に沿って丁寧に確認しながら，データ処理の技能を身に付けさせていきたい。また，1目盛りの量が異なるグラフや種類の異なるグラフを読み取る活動を増やしたり，アンケート集計などの身近なデータをグラフで表したりして，グラフについての関心や作図の技能も高めていきたい。

宇都宮市立岡本小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.8	62.5	61.5
	生命・地球	64.8	69.2	68.6
観点	知識・技能	71.1	77.2	76.3
	思考・判断・表現	49.9	54.4	53.7
	主体的に学習に取組む態度	42.4	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・平均正答率は56.8%であり，市の平均より5.7ポイント低い。 ○電気の通り道の名前を問う問題の正答率が，宇都宮市の平均正答率より5.9ポイント高い78.3%とできている。 ●物の重さは，置き方や形を変えても変化しないことの理解が実際に実験をしているにも関わらず73.9%の平均正答率に留まっており，これは，市と比較しても14.2ポイント低く，体験を通して得た知識の定着に課題が見られる。 また，種類の異なる物質を同じ重さにしたとき，体積がどうなるかを資料から考える問題の平均正答率は13.0%と大変低い。学んだことを活用し，実験したことの無い課題を解決していく力の育成に課題が見られる。	・実験の際には，結果をしっかりと確認するとともに，既習の内容と比べたり，身近な現象と重ね合わせたりしながら，実験結果から何が分かったのかを振り返って言葉で表現する活動を増やし，より確実な理解へとつなげるようにする。 ・実験を通して得られた概念を教科書掲載の実験や理科の授業のみで使用するのではなく，身の回りの他の現象にも当てはめて考えたり，実証実験を行ったりすることで，学習したことを体験していない実験にも当てはめて考えられるようにする。 ・観察の際に，繰り返し虫眼鏡を利用させるようにし，その都度虫眼鏡は動かさないことや目の近くで保持することを確認し，正しい使い方の定着を図りたい。 ・問題の意図を考えず，直感的に答えてしまう傾向が見られるので，類似問題に学級全体で取り組むなどして，問題文のどこに着目するのかを意見を出し合って考えさせたり，キーワードを使用して正しい解答を書く練習をさせたりする。 ・既習事項について、日常生活の中で繰り返し意識させ、実感を伴った確実な定着を図る。 ・教科の重要語句は，カードなどを使って，聴覚，視覚両面から単元内や関連する他の単元で，繰り返し意識させ，理科用語の確実な習得を図る。
生命・地球	・平均正答率は64.8%であり，市の平均より4.4ポイント低い。 ○昆虫の蛹になるものとならないものの理解は，宇都宮市の平均正答率より6ポイント高い71.7%とできている。 ●虫眼鏡の正しい使い方を問う問題の正答率は41.3%であり，課題が残る結果となった。虫眼鏡自体を動かさずに観察することは，84.8%と多くの児童が理解しているが，虫眼鏡と目の距離の扱いに課題が見られた。 ●太陽の位置と影のでき方の関係を問う問題の平均正答率は34.8%，47.8%と共に低く，課題が見られる。 ●ホウセンカの子葉やモンシロチョウの幼虫の名前を問う問題も78.3%と8割近い正答率ではあるものの，市の平均より13.2ポイント低く課題が見られる。	

宇都宮市立岡本小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○学ぶ意欲に関わるものとして，「勉強していて，おもしろい，楽しいと思うことがある」に対する肯定的回答は89.1%で，市より4.8ポイント高く，「本やインターネット等を利用して，勉強に関する情報を得ている」に対する肯定的回答は63.1%で，市より4ポイント高い。また，読書に関わるものとして，「1か月に，何冊くらい本を読みますか」との質問に対し，11冊以上と回答した児童が39.1%おり，3冊以上と回答した児童は80%で，市より9ポイント高い。さらに，社会に関するものとして，「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」に対する肯定的回答は89.1%で，市より10.5ポイント高い。今後も社会的事象に対する興味・関心が学習意欲につながるような授業展開を図りながら，児童の学力向上に努める。

○学校での様子に関わるものとして，「先生は学習のことについてほめてくれる」に対する肯定的回答は95.6%で，市より9.7ポイント高い。また，「授業で分からないことがあると，先生に聞くことができる」に対する肯定的回答は80.4%で，市より6.5ポイント高い。今後も児童との関わりの中で認めたり勇気付けたり，悩みや困りごとについて話を聞く機会を意図的に設けていく。

●家庭での学習に関わるものとして，「家で，学校の授業の予習をしている」に対する肯定的回答は47.8%で市より5.5ポイント低い。「家で，学校の授業の復習をしている」に対する肯定的回答は47.8%で市よりも10.7ポイント低い。「家で，テストで間違えた問題について勉強している」に対する肯定的回答は43.5%で市よりも21.3ポイント低い。さらに，「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」との質問に対し，「全くしない」との回答は19.6%であった。今後は，学校で配付している「自主学習のヒント集」を活用して，さらなる家庭学習の習慣化に努める。

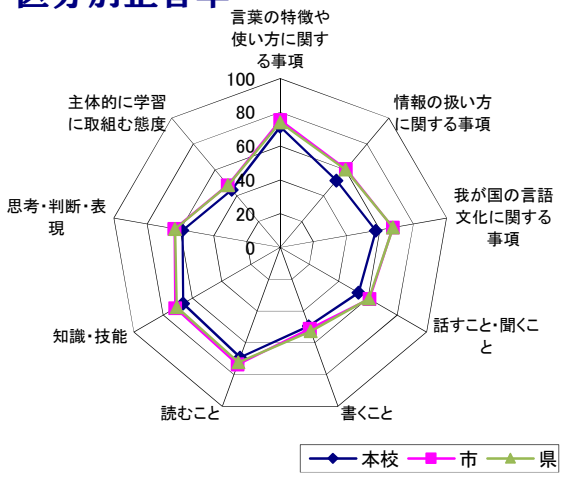
●学校での様子に関わるものとして，「学習に対して，自分から進んで参加している」に対する肯定的回答は65.2%で，市より5.4ポイント低い。また，「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」に対する肯定的回答は63.1%で，市より10.6ポイント低い。今後は児童が主体的・対話的に授業に参加できるように，学習活動を工夫した授業展開になるように努める。

●家での生活に関わるものとして，「毎日，朝食を食べている」との質問に対し，「いいえ」との回答は6.5%で，市より5.1ポイント高い。また，「ふだん，1日にどれくらいの時間，すいみんをとることが最も多いですか」との質問に対し，「6時間より少ない」との回答は10.9%で，市より7.4ポイント高い。今後は，朝食をとることの大切さや睡眠をとることの大切さについて，養護教諭や栄養士と連携しながら，保健や学級活動の中で適宜取り上げたり，家庭への啓発を図ったりしていく。

宇都宮市立岡本小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.5	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	51.7	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	57.5	67.7	67.8
	話すこと･聞くこと	53.5	61.0	60.7
	書くこと	49.4	51.2	52.8
	読むこと	69.2	73.7	72.4
観点	知識･技能	66.3	71.7	70.6
	思考･判断･表現	58.7	63.5	63.2
	主体的に学習に取組む態度	44.5	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

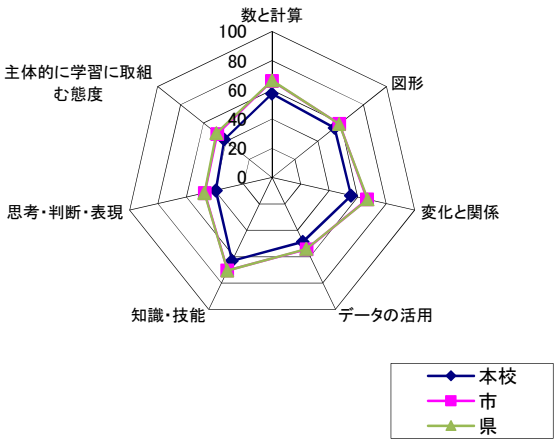
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	･領域全体の平均正答率は，市平均より3.9ポイント低い。 ●熟語を書く問題が，市平均より9.7ポイント低く，定着が不十分である。 ●動詞･形容詞･形容動詞を修飾する連用修飾語への理解が十分ではなく，連体修飾語との混同が見られる。 ○漢字の読みについては，すべての問題において90%を上回っている。	･漢字に関しては，今までの漢字の復習を行う中で，単体で練習をするのではなく，特別な読み方にも触れていく。また，文章を書く活動等で，既習の漢字や熟語を使えているか丁寧に添削を行い，定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	･領域全体の平均正答率は，市平均よりも8.8ポイント低い。 ●漢字辞典の使い方に関する問題が，市平均よりも12.2ポイント低く，総画索引や部首への理解が不十分である。	･漢字辞典を身近に置き，分からない漢字や成り立ちなどをすぐに調べる習慣を身に付け，漢字辞典の活用を図るとともに，教師は「総画索引」や「部首索引」といった語句を意識的に使うようする。
我が国の言語文化に関する事項	･領域全体の平均正答率は，市平均より10.2ポイント低い。 ●意味を考え，ことわざに置き換える問題では，前後の文脈を読まずに答えている傾向が見られる。	･読み聞かせやスピーチ等の活動を積極的に取り入れ，様々な言い回しやことわざ･熟語等に触れる機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	･領域全体の平均正答率は，市平均よりも7.5ポイント低い。 ●意見の共通点や相違点に着目をして考えをまとめる問題では，40%以上の児童が意見からではなく，個人の考えに近い選択肢を選んで不正解となっている。	･教育活動全般において，友達の意見との共通点や相違点に着目して聞き，話し手の意図を捉えながら話合いをする機会を多く取り入れる。
書くこと	･領域全体の平均正答率は，市平均より1.8ポイント低い。 ○指定された長さで書いたり，事実を伝えたりすることはできている。 ●自分の考えをもったり，それを段落を分けて表現することに課題が見られる。	･内容を整理したり段落構成が決められていたりと複数の条件を意識して文章を書くことに慣れていない様子が見られるので，国語の授業等で要約したり，条件を付けて作文を書いたりする練習をすることで，自分の考えをもち，分かりやすく表現ができるようにしていく。
読むこと	･領域全体の平均正答率は，市平均よりも4.5ポイント低い。 ●市の平均正答率と比べると同程度の項目が多いが，説明文において，叙述を基に文章の内容を捉える問題の正答率が市の平均正答率よりも8.9ポイント低くなっている。	･文章の中から大事な言葉を見付け，それらをつなぎ合わせたり，要約したりする活動を多く取り入れ，内容を捉える力の定着を図る。 ･様々な教科で，内容を簡単に説明する活動を取り入れる。

宇都宮市立岡本小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.4	66.1	66.4
	図形	54.6	58.9	58.8
	変化と関係	55.4	66.6	67.0
	データの活用	48.7	54.4	54.2
観点	知識・技能	63.1	70.4	70.6
	思考・判断・表現	39.5	47.2	47.5
	主体的に学習に取組む態度	41.8	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

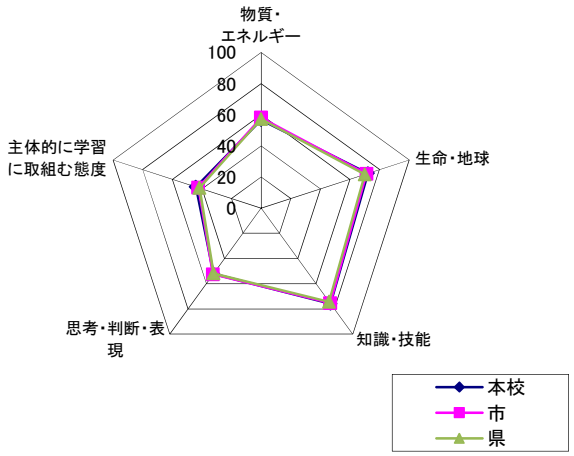
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域全体の正答率は，57.4%であり，市の平均正答率よりも8.7ポイント低い。 ○小数を10倍した数を求める問題の正答率は，84.6%であり，やや高い値である。 ○小数第一位＋小数第二位のたし算の問題の正答率は，84.6%であり，やや高い値である。 ●四則や(　)の混じった式の計算順序を問われる問題の正答率は，51.3%であり，市の平均正答率よりも15.6ポイント低い。 ●示された考えにならい，分数のたし算の計算方法を説明する問題の正答率は，15.4%であり，とても低い値である。	・小数の位を上げたり，下げたりすることはおおむね定着していると思われる。しかし，領域全体の正答率は，市や県のものよりも大きく下回っている。繰り返し，計算問題に取り組む経験を重ねながら，基本的な計算技能が身に付くようにしていきたい。 ・四則計算や(　)の混じった式の計算順序の理解が十分でないことがわかる。四則計算の計算順序を図で示したり，ひとつの式で表してどのような計算をするのか説明する活動を取り入れたりして，合理的に計算する力が身に付くようにしていきたい。
図形	・領域全体の正答率は，54.6%であり，市の平均正答率よりも4.3ポイント低い。 ○教室のおよその面積を求める問題の正答率は，41.0%であり，市の平均正答率よりも4.3ポイント高い。 ●面積の単位の関係を説明する問題の正答率は，12.8%であり，とても低い値である。	・面積に対する量感は，市の平均と同等に身に付いていると思われる。実際にものの広さを測定し，量感を経験する活動を通して身に付けてきたと思われる。今後は面積だけでなく，体積などの大きさについても，同様に体験活動を通して身に付けさせていきたい。 ・1辺の長さの単位が変わったり，数倍になると面積がどのように増えるかということが十分に理解できていない。1辺の長さと面積，体積の関係を，表などを用いて習熟を図っていきたい。
変化と関係	・領域全体の正答率は，55.4%であり，市の平均正答率よりも11.2ポイント低い。 ●基準量を求めるように表した図を選ぶ問題の正答率は，市と県の平均正答率よりも26.4ポイント低い。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題の正答率は38.5%であり，低い値であった。	・基準量や比較量などを，求めることが難しい。文章問題を解くときには，授業の導入の中で視覚教材を用いて場面を確認したり，数量の大小を比べて，情報を整理していくことに重点を置きたい。また，立式では数直線の作図の仕方を確認して妥当な式を立てられるように丁寧に指導していく必要がある。 ・伴って変わる2つの数量の関係を式で表すことが難しいことがうかがえる。2つの数量がどのように変わっているのか表で確認し，規則性を書き込むことができるように指導していきたい。
データの活用	・領域全体の正答率は，48.7%であり，市の平均正答率よりも5.7ポイント低い。 ●折れ線グラフから変わり方を読み取る問題の正答率は，41.0%であり，市の平均正答率よりも10.4ポイント低い。 ●二次元表から質問に応じた量や違いを選んだり，求め方を説明する問題の正答率は，17.9%であり低い値である。	・グラフを見て，どのようなことがわかるのか（縦軸や横軸，1目盛りの数量，変化のしかたなど）を読み取るポイントや手順に沿って丁寧に確認しながら，データ処理の技能を身に付けさせていきたい。また，色分け表を用いたり，見る部分を指し示したりするなど，視覚的に支援しながら，段階的に図表を読み取る技能を身に付けさせたい。

宇都宮市立岡本小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.6	58.1	57.2
	生命・地球	72.2	71.1	70.0
観点	知識・技能	75.9	75.5	74.4
	思考・判断・表現	52.1	52.7	51.9
	主体的に学習に取組む態度	44.2	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	・平均正答率は56.6%であり，市の平均より1.5ポイント低い。 ○水のあたたまり方から，水槽のヒーターを取り付ける適切な位置を考える問題では，平均正答率80.0%と，市の平均正答率68.1%よりも11.9ポイント高くよくできていた。また，金属のあたたまり方を問う問題の平均正答率も92.5%と9割以上に達しており，これはもののあたたまり方の学習で実験結果をもとに考察をしっかり行っていた成果と思われる。 ●乾電池の向きを入れ替えたときの，車の進む向きを問う問題や乾電池2個を使って，乾電池が1個のときよりも速く走る車にするための回路を作図する問題の正答率が5割に届かず，問題の主旨が理解できなかったり，乾電池の並び方につられて並列を選んでしまったりする様子が見られ，実験結果からきまりを見出す力が不十分であると思われる。	・引き続き，理由を明確にしながら予想，実験，結果，考察という過程を大切にした指導を続けていく。 ・繰り返し学習内容の復習を行い確実な定着を図るとともに，問題文の読解の仕方，解答の仕方についても単元のまとめの段階で，とちぎっ子学習状況調査の過去の問題を利用して丁寧に指導し，習得した内容が調査の正答につながるように指導していく。 ・乾電池の直列つなぎや並列つなぎを学習する際には，実物や図などを実際に繰り返し操作してつなぎ方を考えさせ，導線を整理しながら，回路として成り立つつなぎ方は2通りしかないことを実感させるようにする。またその際，極の繋がりを意識させ，乾電池の向きに関係なくつなぎ方の違いを理解できるようにする。
生命・地球	・平均正答率は72.2%であり，市の平均とほぼ同じである。 ○1年間のツバメや大カマキリの様子を問う問題の平均正答率は，87.5%，92.5%と高く，それぞれ市の平均正答率と比較しても10.3ポイント，7.3ポイント高い。このことから，生き物の様子に興味をもってしっかり学んでいる様子がうかがえる。 ○満月の動きを問う問題の平均正答率は87.5%と市の平均正答率より9.8ポイント高く，よく理解している ●気温の変化のグラフとヘチマの茎の伸び方を関係づける問題の平均正答率は，32.5%と低く，市の平均正答率を20.5ポイントも下回っており課題が見られる。	・生き物や月などに対する興味・関心が高い様子が見られるので，機会があるごとに話題に取り上げるなどして，引き続き身近な自然に目を向けさせ，その特徴や生態を意欲的に調べていけるようにしていく。 ・昨年度もグラフの読み取りに課題が見られ数値の読み取りに力を入れたが，まだ複数のグラフの項目を読み比べながら考える力が十分とは言えないので，他教科の時間と相互に関係付けを図って，グラフを正確に読み取る力の定着を図りたい。

宇都宮市立岡本小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○家庭での学習に関わるものとして，「家で，学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に対する肯定的回答は71.8%で，市より10ポイント高い。また，「家で，学校の授業の復習をしている」に対する肯定的回答は69.3%で，市より7.6ポイント高い。一方で，「家で，学校の授業の予習をしている」に対する肯定的回答は43.6%で，市より8.3ポイント低く，「家で，自分で計画を立てて勉強している」に対する肯定的回答は66.6%で，市より4.2ポイント低い。今後も，「自主学習のヒント集」を活用し，家庭学習の取組の幅が広がるよう支援していく。
○学ぶ意欲に関わるものとして，「勉強していて，おもしろい，たのしいと思うことがある」に対する肯定的回答は89.8%で，市より4.7ポイント高く，「勉強していて，「不思議だな」「なぜだろう」と感じることがある」に対する肯定的回答は92.3%で，市より7ポイント高い。今後も児童の学ぶ意欲の高さを生かした導入の工夫を取り入れ，重要語句や公式などの理解を深められる授業展開を図っていく。
○学校での様子に関わるものとして，「学習に対して，自分から進んで取り組んでいる」に対する肯定的回答は87.1%で，市より11.7ポイント高く，「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」に対する肯定的回答は94.9%で，市より11.6ポイント高い。また，「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」に対する肯定的回答は84.6%で，市より5.6ポイント高い。さらに「クラスは発言しやすい雰囲気である」に対する肯定的回答は94.8%で，市より11.9ポイント高い。今後も児童が主体的・対話的に授業に参加できるように，学習活動を工夫した授業展開になるように努める。
○学校での様子に関わるものとして，「学級活動の時間に，友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う」に対する肯定的回答は94.9%で，市より9.1ポイント高く，「自分はクラスの人の役に立っていると思う」に対する肯定的回答は77%で，市より12.5ポイント高い。今後も学級活動を中心に，児童が主体となって活動する機会を大切にし，それぞれの自己有用感が高まっていくよう支援していく。
●「国語の学習は好きですか」に対する肯定的回答は59%で，市より7.7ポイント低い。また，「社会の学習は好きですか」に対する肯定的回答は48.7%で，市より7.1ポイント低い。さらに，「算数の学習は好きですか」に対する肯定的回答は56.4%で9.9ポイント低い。今後は学習への興味を深め，それぞれの教科が好きになり，さらに自信がつくように，導入時においてめあてを明確にして，見通しを持って取り組めるような工夫と学習の振り返り，復習への取組について指導していく。

宇都宮市立岡本小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が自分の学びに気付き，主体的に課題解決に向かう工夫	各教科で宇都宮モデルである「はっきり」「じっくり」「すっきり」を意識した授業展開を行い，課題は何か，何をどのように学んだのかに気付けるようにする。 また，児童の興味・関心を高める導入を工夫し，課題解決の見通しを持って学習に取り組むことができるようにする。	「授業の中で目標が示されている」に対する肯定的割合は，4・5年生が91.3%で市の平均より，2.9ポイント高く，5年生は92.3%で昨年度の５年生の結果より7.1%高く市の平均92.6%とほぼ同じである。 「授業で扱うノートには，学習の目標とまとめを書いている」に対する肯定的割合は，4・5年生とも市の平均を上回っている。 「勉強していて，おもしろい，楽しいと思うことがある」「疑問や不思議に思うことは，分かるまで調べたい」に対する肯定的割合は，4・5年生とも市の平均を上回っている。 4・5年生ともに，問題文を読み，その中で示されている条件を捉えて，条件通りに正しい答えを出すことに誤答が見られる。
自信をもって学びに向かう児童の育成	自分の考えを言語化して交流することができるよう，学習形態を工夫したり，ICT機器を効果的に活用したりする。 また，授業で各教科における重要語句を繰り返し意識させ，活用できるようにするとともに，本時の授業におけるまとめや振り返りをしっかりと行う。	「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」に対する肯定的割合は，4・5年生とも市の平均を上回っている。 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答している児童が，4年生では73.9%，5年生で56.4%おり，国語科の記述式問題は，4・5年生とも市の平均を下回っている。 「授業の最後に，学習したことを振り返る活動をしている」に対する肯定的割合は，4年生は71.8%で市の平均とほぼ同じであるが，5年生が74.4%で，市の平均79.5%より5.1ポイント低いかった。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から，各教科に関する共通する課題として，教科の重要語句を使用して，文章で理由などを説明する問題や，長文や複数の資料の中から重要語句の意味を正しく捉えて考える問題，また，説明文の内容を捉え，要約する問題などにおける正答率が平均より低い傾向がある。	各学年，各教科で言葉の特徴やきまり，教科の重要語句に重点を置いた指導を行い読む力を育てる。既習の語句を繰り返して取り上げ，自分の考えを書いたり，説明したりするなどの言語活動を，教科横断的に取り入れる。	どの教科においても，国語辞典や漢字辞典，ICT機器などを活用し，語彙の正確な意味を理解しながら文章を読む活動を意図的に設け，語彙の量を増やす。また，重要語句を使った文章を書く活動を取り入れ，言葉の正しい使い方を習得させ言語活動の質を高める。 また，授業内容に関連する「パワーアップシート」や「復習教材」「過去問題」を適宜取り入れ，様々な問題を解く機会を意識して設ける。